

## 12月24日（木）塩崎恭久厚生労働大臣と懇談・要請

2015年12月24日、VPD（ワクチンで防げる病気）から子どもたちを守るための予防接種施策について、NPO法人VPDを知って子どもを守ろうの会、NPO法人小児肝臓研究所など13団体と、個人名で日本医師会常任理事小森貴先生、ならびに日本小児科医会会長松平隆光先生らが共同要望書を塩崎恭久厚生労働大臣に手渡した。

今回で6回目となるこの要請は2010年から広く呼びかけて行っている「希望する子どもたちにワクチンを！パレード」を開催したあと、賛同団体が共同で要望書をまとめ歴代の大臣（長妻昭、細川律夫、小宮山洋子、三井辨雄、田村憲久各大臣）と懇談し要望を行っているもの。当日は菌部友良先生（NPO法人VPDを知って子どもを守ろうの会）、藤澤知雄先生、乾あやの先生（NPO法人小児肝臓研究所）、加藤茂孝先生（理学博士・元理化学研究所勤務）、宇佐美宏先生（全国保険医団体連合会）、可児佳代氏、大畑茂子氏（風疹をなくそうの会『hand in hand』）、丸橋達也氏（ポリオの会）、細部千晴先生（Plus Action for Children）らが出席した。厚生労働省からは塩崎大臣のほか、健康局健康課正林督章課長、予防接種室石川直子室長が同席した。



要請では、子どもたちをVPDから守るために、①B型肝炎ワクチンについて、平成28年度の早期に予防接種法のA類疾病の対象とすること、②改正予防接種法の付帯決議に記載されたおたふくかぜ、ロタウイルス感染症を早期にA類疾病の定期接種に定めること、③風疹について、2020年までに麻疹同様、風疹排除国となるよう麻疹風疹ワクチンの接種率向上を図ること、④予防接種の健康被害救済制度の更なる拡充こと、⑤VPDや予防接種についてのよりわかりやすい情報提供に努めること、⑥安全かつ効果的なワクチンの安定供給の確保を国が責任をもって行うこと、の6項目を要請した。

その後の懇談では、藤澤先生や乾先生からB型肝炎ワクチンの定期接種化の方針が出されたことは歓迎しているとした上で、B型肝炎の慢性化を念頭においた場合、少なくとも3歳児まで無料で接種できるようにしてもらいたいと強く要請。また、可児さんからはTBSドラマ「コウノドリ」とタイアップした風疹に対する啓発は有難く、引き続き2020年の東京オリンピックまでに風疹を撲滅させるために、接種機会のなかった成人男性へのワクチ

ン接種推進するために、接種費用の助成や東京都のような企業と連携した啓発を各地で推進するよう求めた。

丸橋さんからはポリオ生ワクチンを不活化への切り替えが進んだ点を評価しつつも、今もワクチン由来ポリオの後遺症で相談が寄せられる中で、健康被害の補償対象とするには手間と時間がかかっている。VPDを防ぐワクチンの推進と併せ、救済制度を活用しやすくするよう申請手続きや内容の改善を要請した。

細部先生からは麻疹排除国として認定されたことは喜ばしいことで、今後もMRワクチンの接種を継続していくことが重要である。しかしながら、東京都2期（就学前児）の接種率が95%以上目標に対し89.8%で全国平均を大幅に下回っている。これを早急に引き上げるには、就学前健診時に接種確認と接種勧奨の徹底等対策を講じることが急務であると強調した。



要請に対し、塩崎恭久大臣は「要望のとおり、子どもたちは私たち日本社会の宝であり、VPDから命を守るためにこれからも国としても予防接種施策を推進していく」と回答した。B型肝炎ワクチンの定期接種化など重要な課題についてもそれぞれの関係機関と協議しながら着実に進めていく予定であると話した。その後、風疹をなくそうの会から塩崎大臣に啓発オリジナルバッチが手渡されると、大臣は快く襟にバッチをつけて参加者で記念撮影を行う一幕もみられた。

厚生労働大臣要請後、午後からは厚生労働省記者クラブで会見を開き、テレビ東京など10社が出席した。

（文責：吉川恵子）